

「新」初等教育プログラム ～ 21世紀の時間割～

6班：岩下貴卓、鈴木敦子、坂伸子、樋口直人、山浦和徳

概要

よりよい義務教育を目指して始まった総合学習、これは、児童たちの自主性を尊重し、児童たちが主体的に社会と関わっていくことを目的としている。しかし総合学習への満足度は高い一方で、学校の授業全体をつまらなく思う児童が多いという現実も起きている。

そこで、児童自らが好奇心や探求心を持って能動的に取り組めるような授業、つまり総合学習的な授業を採り入れる代わりに、教科の枠組みに固定された従来の方法を廃止する事を、新たな施策として提言する。

日常生活は様々な内容の複合体であり、従来の学習方法だけでは、教室の内と外で学ぶことに大きなズレが生じてしまう。その結果、児童たちが勉強の意義を見失い、授業への不満を感じるようになったと考えられる事から、この新しい授業方法により、児童が自由な発想で学習に参加し、様々なテーマへの追究を行うことで、独創性や学習に対する積極性を身に付けられると予測される。更に、学校で他の児童たちと、共に協力しながら学習を進める為、コミュニケーション能力の習得も期待されるのである。以上の効果は、文部科学省の推進する「生きる力」にもつながっている。

<はじめに>

この2002年4月から、知識偏重教育の反省に基づいて、新たな義務教育が開始されました。大きな特徴は総合学習を取り入れたことで、その狙いは、自ら学び・自ら考える力の育成、学び方や調べ方を身につけること(出典：文部科学省のHP)にあります。私たちは、その効果を最重要視する教育プログラムを提案します。

皆さんは、小学生がどうやったら一番興味をもって勉強すると思いますか？

私たちは、子ども達の発する「なんで勉強をするの？」に答える小学校教育システムを考案しました。

現在は、国語、算数、社会、理科という科目に加え、別に生活総合科目を採り入れた授業をしていますが、私たちはその学習方法を逆転させて、総合学習に今までの国算社理などを取り込んで授業を行う事を提案します。

なぜ、授業の改革に取り組む必要があるのか？それは、このデータをご覧になって頂く事で、理解して頂けるかと思えます。

グラフの提示(不登校者の増加、等)

こちらは、不登校者数の推移を示すグラフ(資料1)です。年々増加の傾向にあります。そして、不登校の子ども達が学校に行かない理由の一つとして、学業不振が挙げられています。また、学校生活で楽しくない事に、「授業の内容ややり方、進み方」が挙げられ、小学生の約半数である51%の生徒が、授業内容に不満を感じている事になります。生徒が学

校で過ごす時間の大半は授業時間です。授業をつまらないと感じる事が、子ども達の不登校を引き起こす大きな原因の一つと言えるのではないのでしょうか。

一方、今年度から実施されている総合学習の満足度は、在校生においては70%と、非常に高い数値を示しています。卒業生では81%と、より多くの生徒が満足感を得ていた事から、その後の学習においても、つまり中学生になってからも、総合学習の良さを実感しているものと推測されます。在校生の保護者では80%となり、高い支持を得ています(資料2)。学習内容の削減に対する保護者の不安があると言われている一方、総合学習という取り組みには賛同を得られているのです。

< 第1章 >

それでは、総合学習の時間に実施された授業で、小学生が興味をもって取り組んだ例がこちらに有るので、見てみましょう。こちらは長野県の小学校における、犬の飼育を行った授業です。

具体例の提示～犬の飼育～

ある2年生の学級が犬を飼うことに決めました。
犬を飼うためには犬小屋が必要です。

犬小屋を作るためには当然木材が必要で、まず、木材を買うお金を集めなければなりません。しかし小学校2年生なので、アルバイトをするという訳にもいきません。そこで、たまたま酒屋さんの子どもがクラスにいたことから、お酒の瓶を集め、それをお金に換えてもらうという考えを思い付きました。一升瓶やビール瓶の値段、木材の値段等から、どれだけの瓶を集める必要があるか、子ども達は計算しました。これがまず算数の勉強になります。

そして、集めた後酒屋さんに行くと、お店の人が、瓶の回収・再利用のシステムを説明してくれます。これが社会の勉強となりました。
それから、お金が入ると木材を買い、小屋の制作を行いました。もちろん、これは図工の勉強となりました。

また、実際に飼い始めると、さまざまな問題が起きます。餌などの世話、授業中は教室に入れるので、排泄物の世話などが必要となりました。そうして、総合的にさまざまことを学んでいきました。

このような実践は子どもたちの興味・関心を引き出し、体系的な知識の学習では身につけることのできない能力を修得させると思われます。それと同時に、実行の難しさも伴う事が分かるのではないかと思います。

しかし結局、生徒達は、教師や大人の意見を当てにするのではなく、自ら問題意識を持ち、主体的に学び、問題を解決することが出来ました。

そこで私たちは、上記のような教育を最も大切にしたい教育プログラムを掲げます。

具体的には、二つの施策を行います。一つ目は、科目ごとに仕切られていた授業の廃止です。

国語でも算数でもない、新しい視点による学びのテーマを、科目の代わりに設置します。と言うのも、私たちが日常生活で対面する場面を、たった一つの既存の科目で区切ることは不可能に近いからです。

例えば、新聞を読むには日本語の能力が必要ですが、記事の中にグラフや表が登場した場合、これまでは算数の授業で学んできたグラフを読む力というものも、必要になってくる訳です。

二つ目は、柔軟性を持った時間割の制定です。今、科目の代わりに用いるものとして挙げた「新しい視点による学びのテーマ」とは、子ども達、ひいては人間に持ち合わせて欲しい事柄を軸に設定されます。学びの要素の分類と設定は、国が行います。ただし、そのテーマを取り上げるタイミングや、テーマの組合せ方、学ぶ時間の割り振りには制限を持たせず、学校や教師の裁量に任せる事にします。

では、授業内容を具体的にお見せいたしましょう。

模擬授業「故郷」

教師：今日は、私たちの故郷について考えてみよう。故郷について学ぶには、何をしたらいいかな？

児童A：図書館に行って、本で調べるのがいいと思う。

児童B：先生、街を歩くのは、だめ？

教師：どちらもいいアイデアなので、今日は両方やってみよう。

児童C：先生、歩くんだったら、地図があるよ。地図がないと歩けないよ。

教師：そうですね。では、地図を自分たちで作るっていうのはどうかな？

児童D：先生、地図ってどう描くんですか？

児童E：街を歩くんだったら、裏山にも行くの？

児童F：この前、裏山でクワガタ採ったよ。まだいるかな？

(終わり)

このように、子ども達の自由な発想を優先させる事で、自発的に学ぶ姿勢や、創造力が生まれるのではないのでしょうか？更に、集団で行動する事で、リーダーシップや協調性といったコミュニケーション能力が、知らず知らずのうちに鍛えられます。

この授業では、この後、地図を描く事で社会の学習範囲を、生き物を観察する事で理科の範囲を学ぶ事ができるでしょう。

次に、この授業方法を機能させる為に、このような時間割を作成してみました。

(時間割表導入) 時間割の具体例を提示し、説明。

「愛」は、幼児虐待や人工妊娠中絶の増加といった社会問題と関連し、家族愛や、友情や恋愛などについて、発展させて考える事ができます。

「正義」では、「正義」のもと戦争が多発している世界情勢について考えてみても良いでしょう。

「自然」は、自然破壊が進行している現状や、それに伴う影響を考える機会を子ども達に与える事ができます。

また、先ほどの授業の形態を実現するためには、従来の45分1コマとした授業では、子ども達の自由な発想を促すには時間が足りないので、例えば、1日1テーマや、1週間、また1ヶ月で1つのテーマを追っていくような授業が必要でしょう。

このような教育システムには、次の様なメリットとデメリットが挙げられます。

メリット

モチベーションの向上、 連想教育、 社会との関係の構築、
創造性・コミュニケーション能力の向上、 うきうき、わくわくの気持ち、
探求心、知的好奇心の向上 無関心からの脱却、
自己回顧、自己反省のチャンスを得る、などが予測されます。

デメリット

基礎学力低下への懸念、
心の教育に関して、教師や生徒や環境の違いによる、学習内容、教育効果のばらつき、
教師の負う負担の増加。

上記のデメリットに関して、解決案を提示します。

まず、1つ目の学力低下に関してですが、知的レベルが小学校の段階では下がるというのは、避けられない事実でしょう。しかし、学習意欲は著しく上がります。結果的に、高校卒業までの長いスパンで考えれば、これまでと同等かそれ以上の学習成果が得られると思われれます。

そして2つ目の問題ですが、まず学習内容については、教師の影響で思想的に偏った教育になる可能性があります。そこは、1クラスに教師を2人以上置く事で、解決できるのではないのでしょうか？

複数の教師の意見が飛び交う事で、幅広い視野に立った考え方を、児童に提示する事が出来ます。

次に、教育効果のばらつきという問題に関してです。均一化を確実に図る事には、限界があります。しかし現在の教育システムにおいても、それは完全とは言えないでしょう。

従って、地域の特色や教師の多様性が生かして、更に子ども達の学習意欲を刺激する効果が加わるという点で、現状よりプラスの効果が期待できると考えられます。地域の特色や教師の多様性が出た結果、学校は個性を発揮し、その結果、児童や親によって選ばれる側となる学校には競争意識が生まれ、よりよい授業を目指す事にもつながります。

最後に3つ目の問題ですが、これは、教師の複数配置や、教師どうしの交流、協力体制を強化する事で、一人一人の教師に影響する負担を軽減していけるのではないのでしょうか。

<まとめ>

物があふれている贅沢な現代に生きる子ども達は不幸である。なぜなら、自ら考えたり行動したりしなくても、欲求が満たされ、「学びの本質」を見失ってしまうからである。

「学びの本質」とは自ら学び、自ら考える力を養う事、そして、学び方や調べ方を身につける事である。つまり「学びの本質」の原点とは、豊かな人間性や自ら学び考える力を育む事である。



「新」初等教育プログラム

～21世紀の時間割表～

岩下貴卓 鈴木敦子

樋口直人 山浦和徳

坂 伸子

《はじめに》



文部科学の新政策(2002年4月から)

知識偏重教育の反省

- 【特徴】
- ①自ら学び考える力の育成
 - ②学び方や調べ方を身につける

→ **①②の効果を最重要視する教育プログラム**

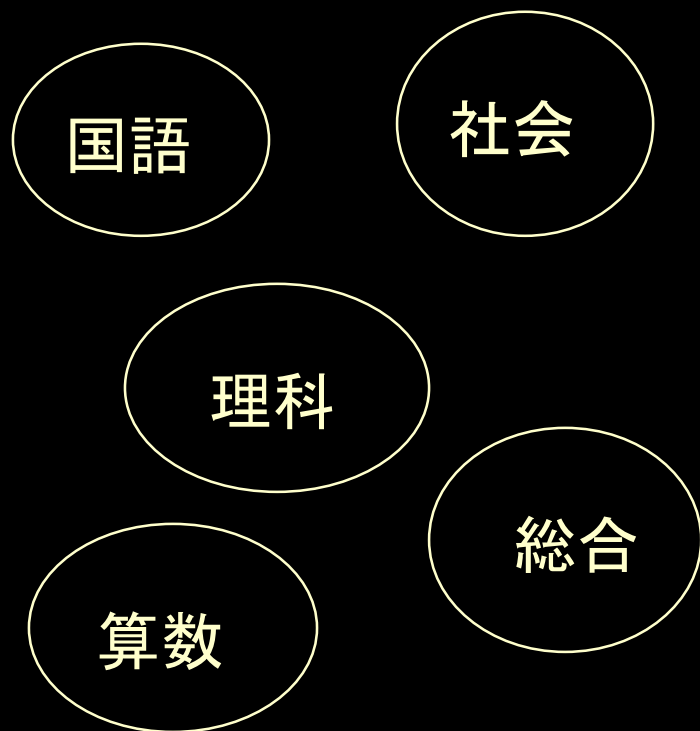
を提案します。



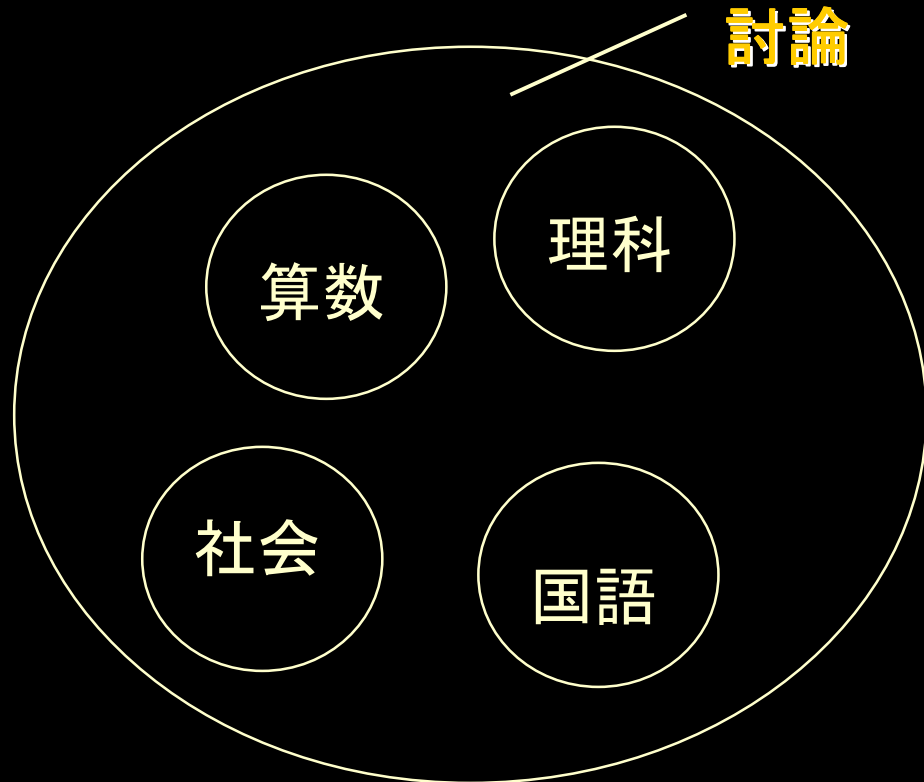
小学生がどうやったら一番興味を
もって勉強すると思いますか？

《 施策 》

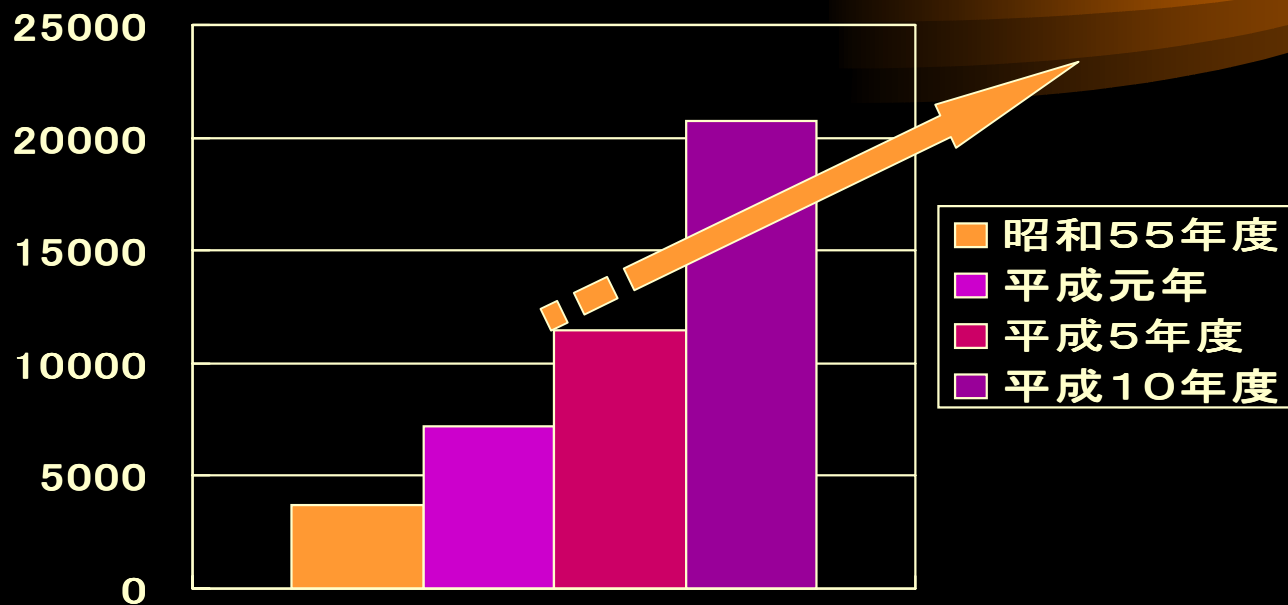
従来



新総合科目

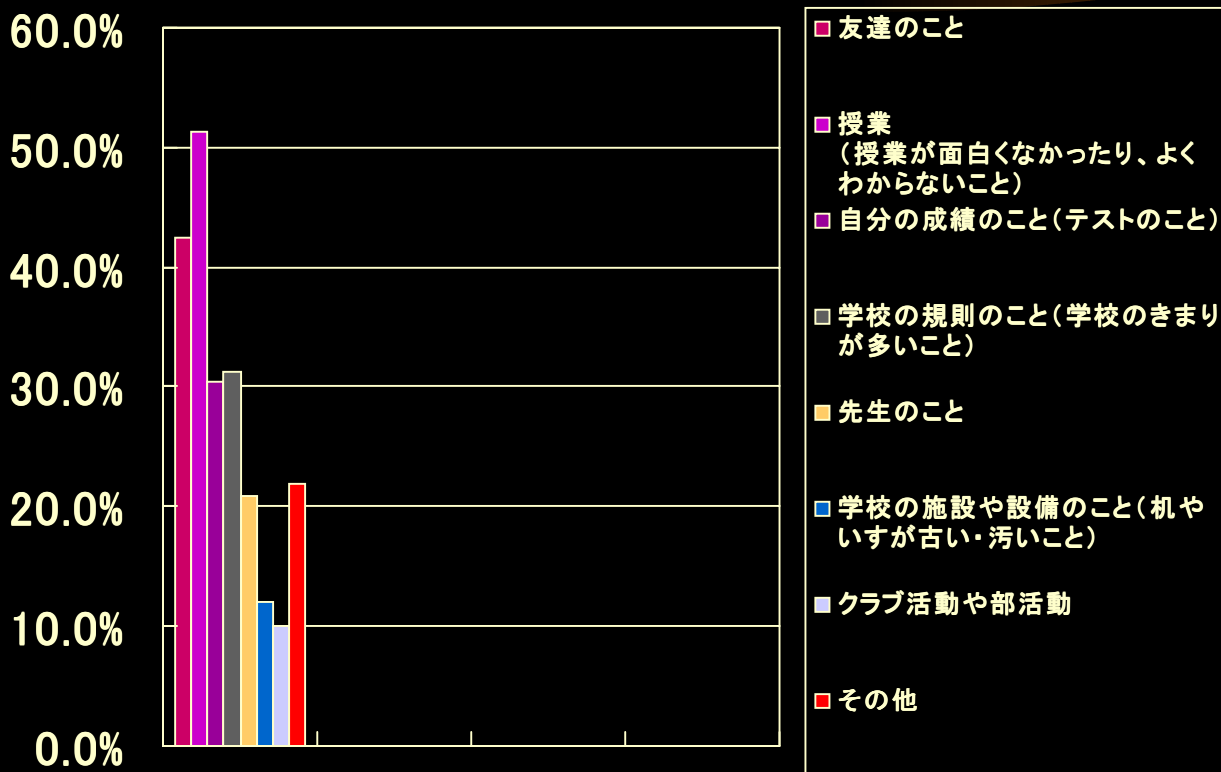


《小学生の不登校児童数の推移》

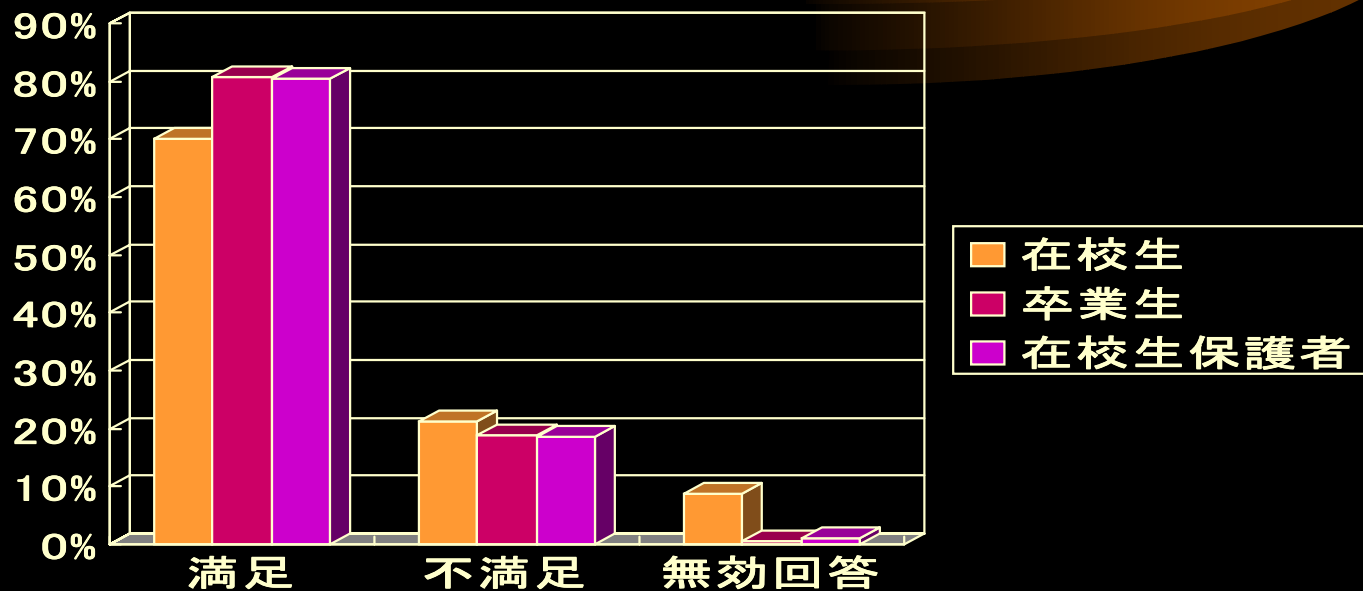


全体の4分の1 (5000人以上)の生徒が
学校生活に起因する理由で不登校になっている

《学校生活で楽しくない事》



《総合学習への満足度》



総合学習を充実させるべき！

《授業風景》

自分たちで地図を作るのはどうだろう？

先生

街を歩くんだったら裏山にも行くの？

児童E

歩くんだったら地図がいるよ。

児童C

両方ともいいアイデアなので、両方やりましょう！

先生

《新しい時間割表》

	月	火	水	木	金
1	自然		故郷		戦争
2					
3					平和
4					
5					命
6					

科目ごとの
授業の廃止！

柔軟性を持った
時間割！

《従来の時間割表》

	月	火	水	木	金
1	国語	体育	社会	社会	理科
2	社会	国語	算数	国語	体育
3	総合学習	図工	体育	家庭	国語
4			国語	音楽	道徳
5	理科	算数		総合学習	算数
6		理科			児童会

《新しい時間割表》

	月	火	水	木	金
1	自然		故郷		戦争
2					
3					平和
4					
5					命
6					

科目ごとの
授業の廃止！

柔軟性を持った
時間割！

《具体的な施策》



- ・ 科目ごとの授業の廃止！
- ・ 柔軟性を持った時間割！

《メリット》



- ・モチベーションの向上

- ・連想教育

- ・社会との関係の構築

- ・創造性・コミュニケーション能力の向上

- ・ウキウキワクワクの気持ち

- ・探求心・知的好奇心の向上

- ・無関心からの脱却

- ・自己回顧・自己反省のチャンスを得る

《デメリット》



- ・基礎学力低下への懸念
- ・教師や児童や環境による教育効果のばらつき
- ・教師の負う責任の増加

《基礎学力低下への懸念》

解決策

知的レベルが小学校
の段階では下がる

<

学習意欲は著しく上
がる

高校卒業までの長いスパンで考えれば、これまでと
同等かそれ以上の学習成果が得られる

《教師や生徒や環境の違い - 学習内容について》

解決策

教師の影響で思想的に偏った教育になる可能性の懸念



1 クラスに教師を2人以上置く

《教師や生徒や環境の違い - 教育効果について》

解決案

地域の特色や教師の多様性が生かされて、更に子ども達の学習意欲を刺激する効果が加わるという点で、現状よりプラスの効果が期待できる

《教師の負う負担の増加》



解決策

教師の複数配置や、教師どうしの交流、
協力体制を強化



一人一人の教師に影響する負担を軽減

《まとめ》

物があふれている贅沢な現代に生きる子ども達は不幸である。なぜなら、自ら考えたり行動したりしなくても、欲求が満たされ、「学びの本質」を見失ってしまうからである。

「学びの本質」とは自ら学び、自ら考える力を養う事、そして、学び方や調べ方を身につける事である。つまり「学びの本質」の原点とは、**豊かな人間性や自ら学び考える力を育む事**である。